

平成 30 年 5 月 15 日

ところ会 OP-3 行事案内

新河岸川を歩く(その-5)

今回は新河岸川を歩くシリーズとして志木駅から始まり朝霞台駅までのコース(約 5.5km)を歩きます。

記

- 日 時：平成 30 年 5 月 31 日(木) 雨天順延
- 集合場所：武蔵野線 新秋津駅 改札口前
- 集合時間：8 時 15 分
- 時間割：JR 新秋津発・むさしの号 8:21 乗車→北朝霞 8:37 着→朝霞台 8:39 発・川越市行→志木着 8:41 志木駅東口/東武バス 9:03 →市場坂上 9:15 頃予定
- 見学場所及び時間：
志木駅東口・・・東武バス・・・バス停：市場坂上(9:15)→引又河岸跡→敷島神社・田子山富士塚→字薬師堂山→宮戸神社→宝蔵寺→昼食(梨花園)→東薬師堂→朝霞市博物館→岡城(城山公園)→終塚古墳歴史公園→バス停：宮台・終塚古墳前(朝霞市内循環バス)・・・北朝霞駅前(朝霞台)・・・北朝霞→新秋津→秋津→所沢駅(16:30 頃解散)
- 昼食：梨花園(焼肉料理) 埼玉県朝霞市宮戸 1-1-9
電話 048-487-1129

■見学先簡単ガイド(各種ホームページから)

□引又河岸跡/引又観音堂

引又河岸とは、江戸時代初期から明治時代にかけて江戸と川越を結ぶ交通の重要な動脈であった新河岸川に設けられた河岸場で、現在の志木市本町 2 丁目にありました。

本町周辺は、かつて引又(ひきまた)と呼ばれていたのが引又河岸(明治七年からは志木河岸)と呼ばれます。



奥州街道と新河岸川が交わる交通の要衝にあったことから、遠くは甲府まで荷主がおり、舟運の発展と共に引又河岸の傍に引又宿が設けられ、六斎市（月に六回の市）が立ち、大変賑わったそうです。しかし、大正3年（1914年）5月1日東上鉄道（現東武東上本線）が開通した事や河川改修による舟運の衰退と共に昭和初期に衰えていきました。



引又河岸跡の標柱や石碑が立っている右手に引又観音堂があります。引又観音堂は、そのもの自体は新しく昭和42年（1967年）に建立されたもので、この付近にあった馬頭観音二体と聖観音を移設安置したものです。

新河岸川で水難に遭った人の霊を供養するために観音様を祀ったようです。

□敷島神社

志木市本町にある敷島神社は、当地の浅間神社に、字市場の村社の村山稲荷神社・星野稲荷神社と無格社の水神社の三社を明治40年に合祀、敷島神社と改称して成立したといえます。浅間神社は、田子山塚と呼ばれていた塚から引又町の高須庄吉が暦応3年（1340）の板碑を発見し、明治5年に富士塚として造成したといえます。



□田子山富士塚

この富士塚は、古墳といわれてきた「田子山塚」の上に盛り土をして築造されたものです。

富士塚とは、富士山を模して築かれた人造の小山で、主に江戸時代から明治時代にかけて築造され、埼玉県内だけでも約百基の富士塚が現存し、志木市内では、この他に一基羽根倉の浅間神社にあります。

田子山富士塚築造の発起人は、後に富士講の先達となった高須庄吉で、富士山を大変崇敬しており、庄吉はこの地を散策中に富士山に入定したといわれる十瀬房承海の暦応三年（1338）の逆修板碑を発見し、大いに感激して同志をつのって築



造に着手しました。工事は、明治二年（1869）十月から五年六月にかけて

行われた。塚は、高さ 12 メートル、樹木や岩石の配置に工夫が施されており、富士山に模して登山道・人穴・胎内・烏帽子岩・釈迦割石や富士山から運んだ熔岩などが置かれ頂上の祠の中には木花咲耶姫命が祀られています。また塚のふもとは、浅間神社の祠があり承海の逆修板碑が祀られています。(志木市教育委員会掲示より)

※：逆修【ぎやくしゅ】・・生前に、自分の死後の冥福(めいふく)のために仏事すること

□朝霞市宇薬師堂山 薬師堂山 中世城館 城跡 城址 埼玉 武蔵より

□所在地：埼玉県朝霞市宮戸三丁目 15, 16, 17, 17 付近

□：歴史と沿革

「朝霞市史通史編」によれば、現在の宝蔵寺の故地、そして地名の謂れでもあるかつて堂山に所在したとされる薬師堂について、詳しいことは分かっていない模様である。かつて建物のものと思われる数個の礎石も存在したとの話も伝わっているが耕作のため撤去されたとのことであるが、周辺の出土遺物から奈良時代から平安時代に小規模な堂宇が建立されていたものと推定している。また付近では 2 例の経塚が確認され、出土した平安時代と推定される経塔などは埼玉県指定の考古資料とされており、非常に歴史のある宗教的な色彩の濃い地帯である。



さて、中世城館については、これまた記録はおろか伝承の類もなく、辛うじて「郷土史朝霞 2」所収の「朝霞の城館址」(1985 年)に、かつて存在していた堀切と思われる遺構の貴重な写真が掲載され、そのことが唯一城館跡としての可能性を示しているに過ぎない。

これによれば、その堀切は「野火止用水路」として利用され、「字切通」の地名の存在と記録などから近世以前のものとして推定をしている。新河岸川水面からの比高 15m、幅 30m、長さ 150mの地形が鍵の手状に広がり、地続きの西側の狭まった部分が上部で 10m、深さ 7mで掘り切られていたということであるが、もちろん現在では見ることはできない。なお著者の森氏は、天平宝字 2 年(758 年)に新羅郡が置かれたことから、古代新羅郡時代の城地を想定されているが、残念ながら推測の域を出てはいないと思われる。

□：確認できる遺構：
新河岸川沿いの台地の崖線のみで、現在遺構は存在しない。

□：構造的特徴および周辺の地理的特徴：

薬師堂山は堂山とも呼ばれ、宝蔵寺の北西 500mに位置する新河岸川南岸標高 15mほどの台地である。北東側は新河岸川に面し、北西側は志木市本町との間に浅い谷が形成されている。

□宮戸神社

もともとは「熊野神社」。創建年代は明らかではありませんが、康生二年(1456)に熊野の御師が新倉郡で活動しており、熊野信仰の広がりを知ることができることから、創建年代も村内の熊野信仰がひろがり勧請されたものかとも思われます。

別当寺は薬王山仏眼寺。明治初年に分離し、宮戸の鎮守「熊野神社」として村社列格になります。しかし明治40年に田島村社神明社とともに浜崎の氷川神社に合祀され、三社の村社にちなんで三柱神社となります。



□宝蔵寺

朝霞市宮戸にある真言宗智山派寺院で、薬王山佛眼院と号します。宝蔵寺の創建年代等是不詳ながら、古くより宮戸の西側字薬師堂山に薬師堂があり、その後当地に高橋内膳某が寺院として開山したといえます。



□東薬師堂

真言宗寺院の東薬師堂は、朝霞市浜崎にある薬師堂です。東薬師堂は、元禄5年(1692)の創建だといえます。東薬師堂には池田イッケの墓地があり、本家の屋号(東)から東薬師堂と称されるようになったといえます。



□朝霞市博物館

郷土朝霞を考古・歴史・民俗・美術工芸の4分野で紹介する常設展示を中心に、企画展示・テーマ展示やさまざまな講座・体験学習などの催しからなる「まなびとやすらぎの空間」です。

朝霞市博物館は、歴史・文化を扱う人文系博物館として貴重な資料の保存及び有効な活用を図ることを目的として、平成9年2月12日に開館しました。



□：展示室

入口の陶板マップ（航空写真朝霞市全図）を導入として、朝霞市博物館の考古・歴史・民俗・美術工芸の4分野による展示がされています。朝霞に暮らした人々の歴史や文化を、そして今に伝わり変化し続ける文化を、各分野ごとにテーマ性の高い展示が明らかにしていきます。

□：遊歩道（屋外水車、あずま屋、湧水）

実際に水の力で回る水車は、朝霞市博物館のシンボルです。その姿と杵の落ちる響きは、かつて朝霞に数多く見ることができた風景を偲ばせてくれます。武蔵野のおもかげを今に伝える遊歩道を散策すると、あずま屋が現れます。自然に囲まれた静かな空間で、心やすらぐひとときをお過ごすことが出来ます。遊歩道の脇には、ほんの少しですが湧水も流れています。

また、収蔵展示室を設け、市内の遺跡から発掘された土器や石器などが年代ごとに多数展示されています。犬の形をした弥生時代の土製品など、全国的に見ても珍しいものも展示されており、志木市の歴史を実感できるような施設となっています。

□：岡城（城山公園）

標高14m、比高10m。城山、岡の城、朝霞城とも。

岡城（埼玉県朝霞市岡）は、黒目川を見下ろす舌状台地上の北・東・南が開ける眺望の地に位置する。

この城に関する史料はほとんど無い。

一説には、長禄一文明年間（1457-1487）頃に太田道灌が築いたといい（『東円寺寺伝』）、また北条氏康に属して後に離反した太田康資の館ともされる（『新編武蔵国風土記稿』）が、確実な事は分かっていない。

遺構は良く残っており、大規模な平山城である。



曲輪は3つほどあり、それぞれ大きな空堀で画されている。曲輪には土塁痕も確認でき、櫓台とされる高みも残っている。

□：県指定史跡 柗塚古墳

柗塚古墳は宮台遺跡に含まれる古墳で、新河岸川を臨む標高21mを測る台地縁辺部に立地しています。

県南部で唯一、墳丘が現存する前方後円墳であり、平成14年3月22日に埼玉県指定史跡として指定を受けました。古墳は、川沿いの段丘のへりにあることが多いですが、柗塚古墳もやはり黒目川の沖積地から比高17mの台地上にあります。

墳丘の長さは72mで、後円部の径は48m、前方部の長さは18m、墳丘の高さは8mです。

大きさ的には、東京都を含めた武蔵南部の古墳の中では中規模、まあ大きい方に入ります。

